

「やさしい日本語」は 何のため? 誰のため?

NHKの ツイッター

これは、2019年10月、千葉県を中心に甚大な被害をもたらした台風19号について、NHKがツイートした「やさしいニュース」です。これに対して、「意味がない、わからない、わかりづらい」「機械翻訳で良い」「バカにしている」など否定的な意見も飛び交いましたが、「やさしい日本語」が一般的に注目されるいい機会にもなりました。



これはNHK「NEWS WEB」の画面です。右と左は同じ内容のニュースを伝えたものですが、見比べてみるとどんな点が違うでしょうか?それぞれにどんな印象を持ちましたか?

左側は、皆さんにとって、いつも新聞やニュースなどで見慣れている日本語ではないでしょうか。それに対して、右側は、ひらがなが多く、表現が不自然で違和感を抱く人もいるかもしれません。これは、外国人などの日本語に慣れていない人たちに向けて、わかりやすい日本語、つまり「やさしい日本語」でニュースを伝えるために工夫されたものです。

最近、報道や街中の看板などさまざまなか所で、こうした「やさしい日本語」の取り組みが見られるようになりました。「やさしい日本語」は、なぜ必要なのでしょう。今号では「やさしい日本語」について考えます。



作り方のポイント

はじめに

- 1. 数ある情報の中から必要なものを取捨選択する

文書レベル

- 2. できるだけ余分な情報をカットする
- 3. 伝えたいことを前に持ってくる
- 4. 必要に応じて補足情報を加える

文レベル

- 5. 一文中で、一つの情報提供に留める
- 6. 一文を短くする
- 7. 主語と述語を明確にする

単語レベル

- 8. 難しい言葉を易しい言葉に置き換える

- ▶ 漢語、カタカナ語 → 和語
例: 危険 → 危ない、ウォーキング → 歩く
- ▶ 専門用語 → 日常語
- ▶ 尊敬語・謙譲語、俗語、若者言葉、慣用語 → できるだけ使わない
- ▶ 方言 → 標準語
- ▶ 複数の意味を持つ言葉 → 1つの意味しか持たない言葉
- ▶ 抽象的な言葉 → 具体例を示す
- ▶ 略語 → 元の言葉
- ▶ あいまいな表現、擬音語、擬態語 → できるだけ使わない

しあげに

- 9. 「分かち書き」にする
- 10. 漢字には、すべてルビをふる
- 11. 必要に応じて、写真やイラストをつける

伝える情報が多いと、それだけで難易度が上がります。こちらが伝えたいことではなく、相手にとって本当に必要な情報かどうか、優先順位をつけて伝えます。

【です】【ます】 日本語教育のほとんどのテキストでは、丁寧語(「です」「ます」で終わる文体)を先に習うため

例 わかる? → わかりますか。

指示「～てください」 指示表現の「～ましょう」は、勧誘の意味もあるため

例 気をつけましょう → 気をつけて ください

可能・不可能「～ことができます/できません」 可能形は動詞の活用が難しく、受身形と間違えることがあるため

例 食べられます → 食べることが できます
使えません → 使うことが できません

「分かち書き」とは、単語ごと、文節ごとにスペースを空けて、読みやすくすることです。

例 大きい 地震が ありました。

この他にも、やさしい工夫がいろいろあります!

- 時間 … 「午前・午後〇時」(12時間表記)
24時間表記にすると、例えば17時を7時と勘違いすることがあるため
- 年月日 … 「西暦年〇月〇日」
和暦は使わない。また、〇〇/〇〇/〇〇は国によって書く順番が違うため
- 時間や空間、数量の始まりを表すつなぎの表現
… 「午前10時から午後5時まで」
波ダッシュの「～」は日本独自の表現であるため

書くときは、文字を大きくする。読みやすい書体を使う。

話すときは、身ぶりや手ぶりで示す。ゆっくり大きな声ではっきり話す。

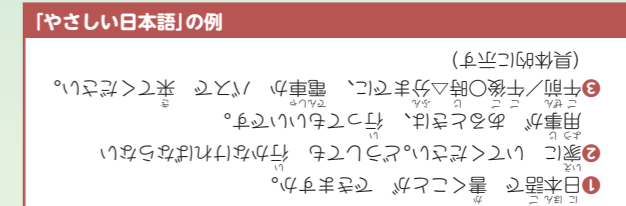
言葉で説明するよりも実物を示す。

【参考】「やさしい日本語の手引き」、愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室、2013年発行/「(増補版)「やさしい日本語」作成のためのガイドライン」、弘前大学社会言語学研究室、2013年発行

チャレンジ!

「やさしい日本語」にしてみよう

- 1 日本語で書ける?
- 2 不要不急の外出は自粛しましょう。
- 3 開始10分前までに、公共交通機関でお越しください。



やさしい日本語とは?

きっかけは命を救うことばとして

1990年の「出入国管理及び難民認定法」の改正・施行を受け、日系南米人を中心に日本で暮らす外国人が急増しました。特に、製造業の盛んな豊田市や浜松市など外国人が集住する都市では、日常において、日本人と外国人が円滑にコミュニケーションをとることの必要性が叫ばれ始めます。その動きは、1995年1月に起きた阪神・淡路大震災をきっかけにさらに強まります。当時、日本語がわからない外国人には、緊急情報や支援などの必要な情報が適切に伝わらず大きな被害を受けたと言われています。その反省から、外国人への迅速な情報提供の重要性が強く認識され、多言語と共に「やさしい日本語」の取り組みが進みました。

なぜ英語じゃないの?

現在、日本には293万3,137人(出入国在留管理庁2019年12月統計)の外国人が暮らしています。その国籍・地域は195におよび、言語も様々です。これら全ての言語に対応することは現実的に難しいことがわかります。さらに、国籍・地域別の上位10か国(1)のとおり、英語を母語としない外国人が大半を占めています。

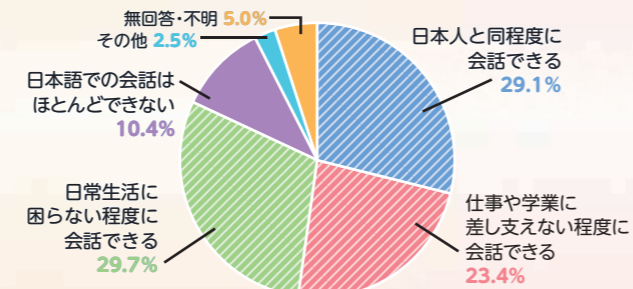
1 在留外国人 国籍・地域別の上位10か国(2019年12月現在)

順位	国籍	人数(人)	割合(%)	順位	国籍	人数(人)	割合(%)
1	中国	813,675	27.7	6	ネパール	96,824	3.3
2	韓国	446,364	15.2	7	インドネシア	66,860	2.3
3	ベトナム	411,968	14.0	8	台湾	64,773	2.2
4	フィリピン	282,798	9.6	9	米国	59,172	2.0
5	ブラジル	211,677	7.2	10	タイ	54,809	1.9

また、法務省が国内37市区に在留する18歳以上の外国人を対象にした調査(平成28年度法務省委託調査研究事業「外国人住民調査報告書」)では、「日本人と同程度に会話できる」人が29.1%、「仕事や学業に差し支えない程度に会話できる」人が23.4%、「日常生活に困らない程度に会話できる」人が29.7%という結果が出ています(2)。これらを合わせると82.2%と

なり、実に8割以上の外国人が、簡単な日本語であればできると回答していることがわかります(斜線部分)。つまり、「やさしい日本語」は、私たちと日本に暮らす外国人との共通言語であると言えます。

2 平成28年度法務省委託調査 「外国人住民調査報告書」



何がどのように「やさしい」の?

「やさしい日本語」の「やさしい」には、「優しい」と「易しい」の2つの意味が込められています。

一般的に「やさしい日本語」のレベルは、「小学校低学年の教科書に出てくるような日本語」「日本語学習の初級レベル(1,500~2,000語)の日本語」と言われています。しかし、伝えたい相手にとって「易しい・難しい」の内容もレベルも異なるため、これはあくまでも目安です。

「やさしい日本語」には、次のような良い点があります。

- 外国語ができなくても、日本語を話す私たちなら工夫次第で、いつでもすぐに使うことができる。
- 異なる言語を使う人たちにも情報を広めやすい。
- 原文が「やさしい日本語」の方が翻訳しやすく、正確な翻訳ができる。
- 多言語での情報発信に比べ、時間とコストがかからない。

こうした良い点がある反面、普段「やさしくない」日本語に慣れている人たちの中には、「やさしい日本語」に対して不自然な印象を受けたり、かえってわかりにくいと感じたりする人もいます。